

3 富士山エコレンジャー

(1)トレイルラン植生保全環境調査

富士山麓で2012年より行われているウルトラトレイル・マウントフジ(以下「UTMF」という)。参加者約2,000人規模で富士山周辺の歩道等を利用し富士山を一周するランニングレースです。このレースによる富士山の自然環境への影響を懸念している富士山エコレンジャーの有志により、今年度本格的な影響調査が実施されました。

今回調査を行ったのは2013UTMFのコースの一部となった須山口登山道標高1,090m地点～水ヶ塚駐車場～須山口下山歩道1.5合目～御殿場口5合目にかけてのルートです。このルートは、林野庁が貴重な動植物の保護等を目的として、国有林内に定める「保護林」や「緑の回廊」、さらには昨年6月に登録された世界文化遺産の一部も含まれています。ルート上には貴重な植物が多く生息し、自然環境保全上、重要な場所であるにもかかわらず、レースでは昼夜問わず連続約26時間を越えて利用されました。

調査は、延べ52人のエコレンジャーが参加し、約2,000人の踏圧が歩道周辺にどのような影響を与えているか、レース開催前後において登山道の荒廃、植生損傷、ゴミの放置などの状況について確認しました。



UTMF実施前



実施後(登山道の複線化が見られる)

調査の結果、登山ルートからの逸脱や登山道の崩壊・浸食等の影響が確認され、富士山の自然環境に重大な負荷を与えている事が判明しました。

エコレンジャー連絡会では、大会主催者や行政機関、マスコミ、地元自治会等に調査報告書を配布し問題を提起しています。

近年、トレイルランニングについては人気が高まる一方、安全性や自然環境への影響が問題視されています。ふじさんネットワークの会員の皆様にも、この実態にぜひ関心を持っていただき、富士山の自然環境保全に御協力をお願いします。また、御希望がありましたら本調査の報告書を無料配布しますので、事務局まで御連絡ください。

(2) 富士山エコレンジャー勉強会

平成26年1月25日(土)富士宮市西公民館において、富士山エコレンジャー勉強会が開催されました。

富士山における静岡県側の昨年の遭難件数は、昨年度の56件に対し、本年度は98件と急増していることから、富士山エコレンジャー連絡会においても、遭難者への対応の知識を習得するため、安全対策をテーマに実施しました。

はじめに静岡県警察山岳遭難救助隊の鈴木久二康副隊長による「富士山における遭難の傾向と対策」と題した講義が行われ、午後からは富士宮市中央消防署員の指導により「救命救急講習(実技講習)」が行われました。

富士山において、ヘリコプターが十分に活動できる範囲は標高2500m程度までとされており、救助の主体は人力になるとの事で大変苦労されていることが伺えました。また、昨夏は富士山が世界文化遺産に登録されたこともあり、遭難者のほとんどが“登山初心者”であったとのことでした。

遭難者を発見した場合は、まず周囲の安全確保とスムーズな連絡、また、救助が来るまで遭難者から離れず声をかける事が重要とのことでした。



山岳遭難救助隊の鈴木副隊長による講義



消防署員指導による救命救急講習

4 寄付金の目録贈呈

平成25年12月3日(火)、静岡県庁内におきまして、マックスバリュ東海株式会社様より、寄付金(75万7635円)の目録が贈呈されました。

この寄付金は、マックスバリュ東海株式会社様の各店舗における、お客様からの募金によるもので、平成24年12月10日から平成25年3月3日までの間に「富士山の日」に合わせて実施した募金と、平成25年6月10日から30日までの間に富士山の世界遺産登録に合わせて実施した募金を合わせたものです。

ふじさんネットワークからは、土会長が、御厚意に対する感謝状を授与しました。



左：マックスバリュ東海株式会社
木内 康彦 総務部長
右：ふじさんネットワーク
土 隆一 会長